

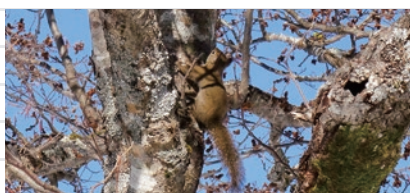


新しい季節の始まりです

小さなサクラが彩る山の春
今年はどんなドキドキが待ってるかな？

氷ノ山フィールドノート

響の森周辺・登山道の自然情報記録よりピックアップして紹介します。



今年はリスの当たり年

1/7 クマ棚の森、1/16 テニスコート上の杉林、1/21 カヤ原のヤマハンノキにニホンリスが来ていました。あの辺を行ったり来たりしているのだと思います。

年明けは寒かった！

1/ 8 -12.3℃(最低気温)
1/ 9 -8.2℃

他の生き物たち

1/21 ツグミ
2/ 5 アナグマ(響の森 玄関)
2/10 シカ(茗荷谷)
2/13 セツゲイカワゲラ
モモンガの糞



リスを見た！



図1 リスによるクルミの食べ痕



図2 ネズミによるクルミの食べ痕



図3 リスの足跡

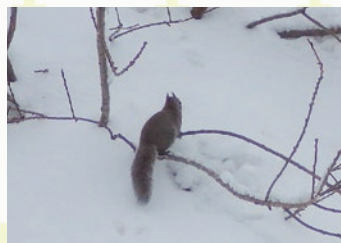


図4 リスの全身姿

リスのしっぽ



子どもも大人も好きな動物、リス。後ろ脚で立ち上がり、前脚で木の実を持ってかじる姿や、木の幹から枝へとちょこまかと走っている姿がとてもかわいらしいです。ここ氷ノ山にもいるのですが、実物を見るのはなかなか稀です。ただ、「おっリス、ここにいたんだ」と思える証拠はこれまで何度も目にしてきました。

例えば食べ痕。オニグルミの実には硬い殻の中に種子があり、食べることができます（いわゆるスーパーで売っているクルミです）。人間は道具を使って殻を割り、種子を取り出して食べています。リスは丈夫な歯を使って殻を真っ二つに割って種子を食べ、残った殻が地面に落ちることがあります（図1）。ちなみに、ネズミもオニグルミの種子を食べますが、リスのように割らずに、殻をかじって穴をあけ種子を食べます（図2）。どちらの食べ痕も氷ノ山で見ることができ、「これはネズミ」「これはリス」と見分けることができます。

次に足跡。スノーシューや歩くスキーで冬の森を歩いていると雪上に見ることができます（図3 丸枠内）。この写真では、足跡の間隔が広くて跳ぶようにかなりのスピードで走ったと思われる。

ではここで足跡クイズです。

- Q1:** 丸枠内に4つの足跡がありますが、どれが前足でどれが後ろ足でしょうか？
Q2: このリスは、右・左どちらに向かって走ったのでしょうか？
 答えは次の通りです。
A1: 丸枠の中で、大きいほうが後ろ足で小さいほうが前足です。
A2: 右へ向かっています。

一見すると前足があるほう（左）が進行方向のようですが、ジャンプして前足をついた後、その前に後ろ足をついて次のジャンプをしています。跳び箱を跳び越える時のような足の運びなので、進行方向は右になります。

これまで食べ痕や足跡等リスの痕跡を目にすることはあっても、実物を見るのは本当に珍しく、見たとしてもほんの一瞬ですぐ林の中に逃げて見えなくなることが多かったのですが、この冬はなぜか私たちの前に何度も姿を現してくれました。スノーシューハイクのイベント開催中に現れ、しばらく近くの木立をうろちょろ。参加者みんなが見ることができて皆さん大喜び！またスノーシューハイクの下見で見つけた時は、雪原を横切って木に登り、枝から枝へのジャンプも披露してくれました。氷ノ山に生息しているのはニホンリスで本州、四国、九州

および淡路島に分布する日本の固有種です。本州の琵琶湖より東や四国には広く分布していますが、中国地方より西では少ないので、環境省は中国地方のニホンリスを絶滅のおそれのある地域個体群（LP）としています。鳥取県では県東部を中心に中部、西部で生息が確認されていますが、やはり県の準絶滅危惧（NT）に指定されています。主な生息地は低地から亜高山地帯までの針広混交林やマツ林等ですが、中国地方全体で見るとマツ林が松くい虫の被害により減少していることがニホンリスの減少に影響しているのではないかとされています。

響の森周辺はまとまったマツ林はありませんが、植樹されたスギ林（常緑針葉樹林）と落葉広葉樹の天然林がそれぞれ広範囲にあり、隣接したり混交林を形成したりしています。スギの枝の茂った部分や樹洞に巣を作り、ドングリ等を食べるので食住接近であり、しかも十分な広さがあるという生息に適した環境です。人々の営み（スギ植林地）と本来の自然（落葉広葉樹林）が混在している自然環境があり、そこに希少なニホンリスが生息している氷ノ山。これからもニホンリスが私たちの前に姿を見せてくれればいいと思います。（高橋）

Special Issue

あんなこと、こんなこと

雪と遊ぼう
1/17㊥・2/21㊥



雪不足で開催出来ていませんでしたが今年はしっかり2回開催出来ました。
 家族で頑張って作ったかまくらの中でのお昼ご飯は格別です。まったり休んだ後はソリ滑り。大人も子供も雪でたっぷり遊んだ1日でした。

親子自然研究クラブ「冬の自然」
1/31㊥



今年度は冬もやっちゃいました、親子自然研究クラブ。雪を縦に掘って壁を作り、上と下の雪の様子を観察したり、重さを比べたりしました。同じ雪なのに固さも重さも違ってビックリ！その他にも木の芽の中身を観察したり、雪のくっつく・滑る性質を体験してみたり、いつものスノーシューハイクとちょっと違った発見が有りました♪

森のようちえん+（雪バージョン）
2/23㊥祝



大人はスノーシューを履いて、子どもは長靴などで雪上散歩。動物の足跡やフンを見ながらスギ林を通り抜けてキャンプ場に到着。その後は広場の斜面で豪快にお尻滑り♪午後もお尻滑りを楽しんだり、穴を掘って入ってみたり、雪でお城を作ったりと氷ノ山の雪でたっぷり遊びました。

響の森インタープリターのイチ押し情報

手作り巣箱



響の森の植栽には親子自然研究クラブのメンバーとクルーが作ってくれた巣箱が設置されています。春は野鳥の子育てシーズン。去年はシジュウカラがヒナにエサを運ぶ様子が見られました。
 もし、巣箱を使っている野鳥を見つけたら驚かさないように隠れてそーっと観察してくださいね。

Highly Recommended

クルー活動紹介

※クルー：響の森ボランティア

1月～3月の活動内容

- スノーシューハイク補助（1）
- 雪と遊ぼう補助・写真撮影（4）
- 山溪月刊誌バックナンバー提供他（1）
- ネイチャースキートレッキング（1）

（ ）は延べ人数



クルーを随時募集しています！
お問い合わせ・登録はお気軽に響の森まで！

しながりは任せて！

ネイチャースキートレッキングでも安心。助かってます。

Activity Report

イベントカレンダー 2021年4月～6月

たくさんのご参加、お待ちしております！

4月	3日⑤ 6/27日⑤	いつでも作れるコーナー ・生き物アババン	土日祝のみ
	3日⑤	親子自然研究クラブ 「木の芽の観察」	
	18日⑤	森のようちえん+ (プラス)	
	25日⑤	山城ハイク ～若桜鬼ヶ城跡～	
ネイチャーキッズフェスティバル	29日⑤ 5/5日⑤	森の縁日	
		ボルダリングに挑戦	
	29日⑤	ペットボトルでパンを作ろう 要申込	
			
5月	1日⑤	ペットボトルでパンを作ろう 要申込	
	2日⑤	THE 丸太切り選手権 要申込	
	3日⑤		
	4日⑤ 5日⑤	THE 湯沸かし選手権 要申込	
	9日⑤	スペシャル観察会 「野鳥観察」	
	16日⑤	森のようちえん+ (プラス)	
	22日⑤	親子自然研究クラブ 「ハビの観察」	
	30日⑤	わかさ氷ノ山夏山開き	

6月	6日⑤	新緑の扇ノ山登山
	12日⑤ 13日⑤	スペシャル観察会 「響の森ナイトミュージアム」 時間／12日 19:00～13日 8:30 料金／2,000円 定員／20名 対象／小学生以上
	20日⑤	森のようちえん+ (プラス)
	26日⑤	親子自然研究クラブ 「川の生き物観察」
	27日⑤	ナイフ講座

Recommended Books 森のオススメ本

葉っぱで見わけ五感で楽しむ 樹木図鑑

♪この木何の木、気になる木♪ 分からない木を調べたいとき、樹形や、樹皮、季節になれば花や実も貴重な情報ですが、この図鑑は葉の形や縁、付き方などから種類を検索できます。木の種類がわかったら、その木の特徴や名前の由来、関係している生き物などを知り、より身近に観察をすることが出来ますよ。サイズも小さくハンドブックのように持ち運びも楽です。



【著者】
林 将之
【出版社】
ナツメ社
【定価】
1,518円(税込)



Information インフォメーション

プライベートプログラム 響の森 エコツアー インタープリター がご案内

「団体じゃないけど希望の日程で参加したい」「家族だけで楽しみたい」…など、少人数のお客様のプログラムで「2名様から受付」。ガイドは響の森インタープリター。氷ノ山のツボをしっかりと押さえているので楽しいツアーになること間違いなしです。ぜひリクエストしてください。

リクエスト受付中
詳しくは「響の森」に
お問合せください

お問い合わせ TEL (0858) 82-1620



(一財) 鳥取県観光事業団

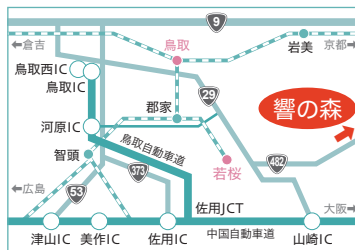
〒680-0728 鳥取県八頭郡若桜町つくよね
TEL (0858) 82-1620 FAX (0858) 82-1612
[E-mail] info@hibikinomori.gr.jp
[HP] https://www.hibikinomori.gr.jp/

開館時間／午前9時～午後5時

	4月～9月	10月・11月	12月～3月
月曜日	月・火曜日	月・水曜日	月・水曜日
夏休み 期間中は無休			12/29～1/3
休館日	祝日の場合は翌日休		



入館
無料



程良い積雪でイベントも山スキーも楽しくできました。でもやっぱり、ここそこに春の気配。あれしてこれして、ウキウキ、ソワソワ待ち焦がれたもうすぐ春本番。(松平) 氷ノ山 山笑う、青空の下背伸びして新緑見れば心爽やか～(高橋) やっと雪が降ったねえ、よかったね! という人々に言われましたが、やって来る春はどんな季節になるのやら。自然との出会いの春に期待! (岡田)

編集後記